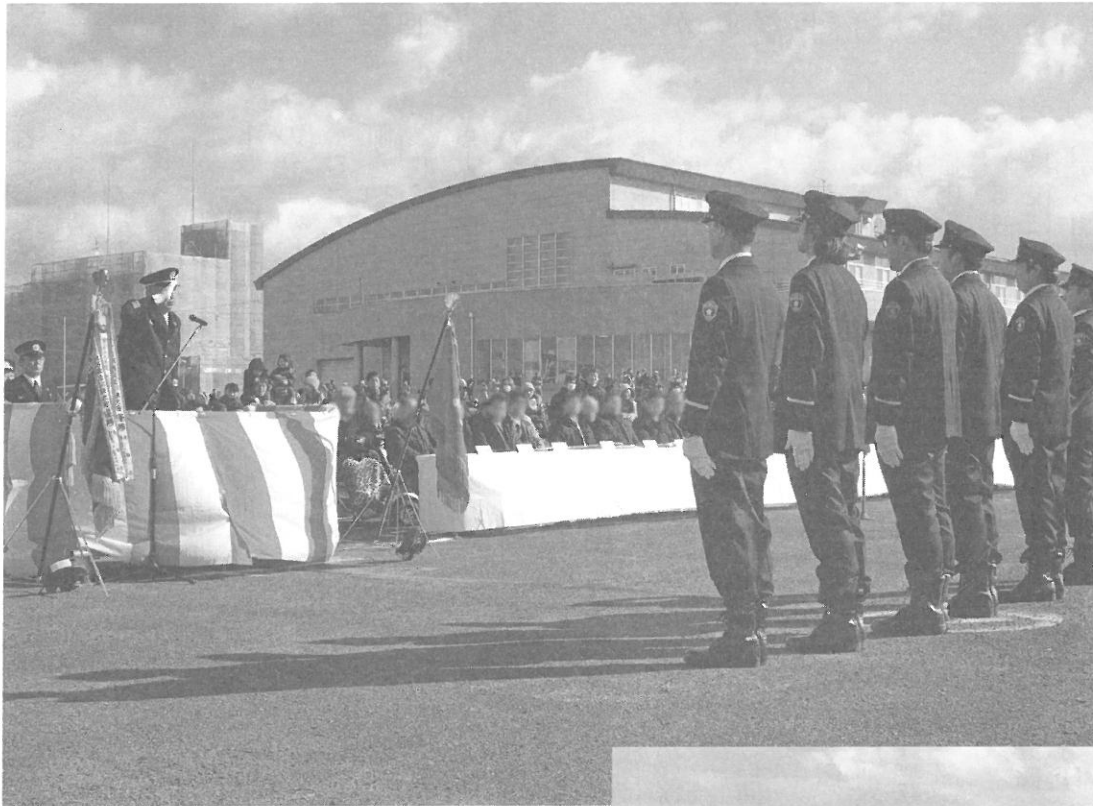


発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
向井正雄
八尾市高美町5-3-4
TEL(072)992-0119
FAX(072)992-7722
H26-204




消防出初式

平成27年1月12日
大阪府中部広域防災拠点



平成27年1月12日(月・祝)大阪府中部広域防災拠点において新春恒例の八尾市消防出初式が開催されました。

当日は、晴天に恵まれ田中市長をはじめ、ご来賓の方々と多くの市民が見守る中、大阪市消防局航空隊ヘリコプターの祝賀飛行で幕が開けました。

式は、国旗掲揚、消防殉職者に対する黙祷、車両部隊、徒歩部隊の分列行進へと展開されました。

その後、消防出初式では初めての披露となる規律訓練を南西方面隊(志紀分団・大正分団)越智部長以下31名により実施され、市民から盛大な喝采を受けました。

最後は、消防職員・団員・自主防災組織・自衛消防隊・幼年消防クラブによる一斉放水で幕を閉じました。

消防出初式を機に、八尾市民の安全・安心を守り抜くため、消防団員として、日々訓練や地域の防災活動に一段と気を引き締めて取り組んで行く所存であります。

(大正分団 戸澤 勝彦)

※参加隊員の感想を8面に掲載

地域防災力の更なる
向上を目指して



団長 向井 正雄

皆様には、平素から地域の安全・安心を守るため昼夜を分かたず防火・防災活動にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

おかげをもちまして、本市におきましては、昨年も大きな災害がなかったことは誠に喜ばしい限りであり、これもひとえに皆様のご努力の賜物と合わせて感謝申し上げます。

昨年の災害状況を振り返りますと、国内外において地震災害や異常気象による豪雨などの自然災害が頻発し、各地に甚大な被害をもたらしました。

8月に発生した広島市での豪雨による土砂災害や9月に発生した御嶽山の噴火による災害などにより多数の死傷者が発生し、多くの方々の尊い命と貴重な財産が失われたことに対し、地域防災を担う

者として誠に残念で、痛恨の極みであります。

また、11月には多くの倒壊家屋を伴う長野県北部を震源とした地震が発生したところであり、南海トラフ巨大地震や首都直下型地震の発生が危惧されております。

ひとたび災害が発生すれば、先陣を切って災害現場に駆けつけ、果敢に活動する消防団には市民から大きな信頼と期待が寄せられています。

このような市民の信頼と期待に応えられるよう八尾市消防団は、複雑多様化する様々な災害に対応し、来るべき巨大災害に備え地域防災の要としての重責を果たすため、施設の整備、積載車の更新、現場活動用資機材の充実を図り、また自主防災組織及び市内事業所からなる自衛消防隊等との連携強化を推進してまいりる所存でございます。

最後に、団員の皆様、そして日頃から団員を支えていただいておりますご家族の皆様のご健勝、ご多幸、そして何より本年が災害のない平穏多き年でありますことを心からご祈念申し上げます。

大阪府消防表彰受章

平成27年3月22日(日)平成26年度大阪府消防表彰式が行われ、本市からも消防庁長官表彰をはじめとして、多くの団員が栄えある表彰を受章しました。

【消防庁長官表彰】

団本部 副団長 小西 繁夫

【大阪府知事表彰】

○消防功労章

曙川分団 分団長 松田 悦治

大正分団 副分団長 平岡 元司

志紀分団 副分団長 山口 光宏

山本分団 部長 石井 一夫

【日本消防協会定例表彰】

○竿頭綬

八尾市消防団

○勤続章

山本分団 部長 石井 一夫

【大阪府消防協会定例表彰】

○永年勤続章

団本部 副団長 岸 孝

○勤続章

久宝寺分団 分団長 岡井 淳治

南高安分団 分団長 畑中 喜幸

南高安分団 副分団長 杉田 晃

高安分団 副分団長 近藤 日出男

山本分団 副分団長 和田 耕治

○勤功章

龍華分団 分団長 岡田 真一

西郡分団 副分団長 吉田 美紀

高安分団 副分団長 谷口 年秀

○精勤章

志紀分団 部長 西口 泰弘

久宝寺分団 班長 村上 勇

曙川分団 班長 濱口 好之

南高安分団 班長 長峰 宏輔

高安分団 班長 山脇 孝夫

山本分団 班長 川西 明

山本分団 班長 澤井 貴之

山本分団 班長 竹下 健一

山本分団 班長 藤井 保士

山本分団 班長 岩崎 利雄

志紀分団 班長 小川 正生

志紀分団 班長 湯田 真二郎

志紀分団 班長 阪本 健之

志紀分団 班長 西川 知広

【平成26年度大阪府水防表彰】
団本部 副団長 村島 友忠
長年にわたり水防に尽力した功績から村島副団長が「大阪府水防表彰」を受章されました。



**第一回消防団職員合同
ポンプ操法訓練大会
(於大阪府中部広域防災拠点)**

平 成26年10月25日(土)消防団及び消防署が協力し警防活動を展開するため第一回消防団職員合同ポンプ操法訓練大会が実施されました。

参加した団員の感想を紹介させていただきます。

「高安分団 清水 大輔」

北 東方面隊からは高安分団が出場し、山本分署の職員の方々と合同での参加となりました。訓練ではミスもありましたが、大会では見事優勝しました。

参加団員に勝因を聞くと、「団結力の強さ」や「時の運」という声が多かったのですが、最も印象に残った平井団員の一言が、「山本分署の職員の方々は、普段の訓練や交流で気心が知れていたのですね、意思の疎通がスムーズで、相談もしやすかったのが大きな勝因ではないか」というものでした。



職員や分団を越えた交流が実際の火災現場活動でもスムーズな連携を生むのでは、と感じました。



「志紀分団 中辻 勝俊」

今 回の訓練大会で、南西方面隊志紀分団より4名が選出され、その中で小隊長を担当する事になりました。

人一倍緊張する方で、人前ではしゃべるのも苦手な私に出来るのかと不安でした。

志紀出張所の職員の方のご厚意で夜間の練習もしていただき、不安やら緊張とか言っている場合ではないと思いました。

とにかく優勝を目指し、大会前日の訓練では色々アドバイスを受け、心が軽くなりました。しかし、当日は人生で一番緊張

し、大きな声を出し、達成感も経験しました。

優勝は出来ませんでした。心の中はスッキリしていません。

貴重な経験をさせていただき、この大会で得た事を消防団活動に活かし、後輩たちの指導にも役立てていきたいと思っています。

志紀分団・志紀出張所の職員の方々にあらためて、「ありがとうございました。」

「曙川分団 北林 丈善」

大 会では、採点方法の基準が「タイムを競う」ということ

とでしたので、いかに効率よく動けるかですが、タイムを意識するあまり、確認不足、各資機材の雑な取扱い等、課題が出てきました。

その都度職員の方からのアドバイスにより、回数を重ねる毎に改善していくことができました。

このようにリアルタイムにアドバイスをしてもらえることが合同訓練のメリットだと思います。

大会では、南東方面隊曙川分団は残念ながら3位という結果でしたが、いい緊張感の中でポンプ操法が行われたと思います。

実際の火災現場では、職員の方と協力していかなければならないので、今回の合同訓練大会は非常に有意義なものとなりました。

「久宝寺分団 藤原 道洋」

今 大会は練習に先立ち、岸方面隊長の招集のもと、北西方面隊4分団のメンバーが龍華分団

屯所に集合し、訓練の役割、進め方等について話し合いを行い、選手だけでなくサポート部隊も含めて、方面隊全員での充実した練習が出来ました。

また、栄町出張所の職員の方々の操法のやり方等を検討いただき、団と署が一丸となって取り組めた、まさに合同の訓練となりました。

残念ながら大会当日は、ポンプ車吸管内側剥離という想定外のトラブルにより、貯水槽からの吸水が出来ず、途中棄権となってしまいました。

悔しい思いをした大会ではありましたが、この大会を通して「結束力」や「仲間意識」など得たものは大きかったと思います。

次回、開催の際には、是非とも北西方面隊リベンジしたいと思えます。



人命救助



平成26年7月19日(土)の深夜に和歌山県白浜町内の棧橋において、海へ誤って転落し心肺停止状態になった男性を仲間と協力し救命したとして、白浜町消防本部より感謝状をいただきました。

事故当時、現場は一時騒然となりましたが、私はAEDの使用方法を訓練していましたので、それほど焦らずに心肺蘇生法を実施出来ました。

後日、無事社会復帰した男性からお礼の言葉をいただき、更にこの様な感謝状までいただけたことは、今後の消防団活動の励みにもなりました。

今後、もしこの様な場面に遭遇した時は、あわてず積極的に行動をしてまいりたいと思います。

(山本分団 山野 清)

消防団員特別教育(中級幹部科)



平成26年10月19日(日)・26日(日)の2日間にわたり大阪府立消防学校において中級幹部科研修に参加しました。

1日目の午前中は開校式の後、現場指揮・安全管理・AED救命処置訓練を実施しました。

午後からは、火災防御訓練を行い、A-Cのブースに分かれて4~5名の各小隊毎で実施しました。2日目の午前中は防災講話を受講し、午後から水災活動訓練で、各小隊毎に積土のう工法を実施しました。

2日間の訓練を受講し、消防団は地域住民の最も身近な防災機関である事を再認識しました。

この研修で得た経験を活かし、地域一丸となれる組織づくりを目標にしていきたいと思えます。

(龍華分団 岡田 真二)

秋季消防総合訓練



平成26年11月2日(日)に八尾市黒谷地区原田山において、山火事想定訓練を行いました。

この訓練は、山火事想定のみではなく、南高安地域の地形を想定し、住宅火災の際、ポンプ車が入れない場所や、高低差のある場所また、消火栓が少ないため水槽に水を貯め、可搬ポンプ・ジェットシューター等での放水をしなければいけない場所等を想定したものです。

訓練に参加した団員の感想を紹介させていただきます。

「南高安分団 西山 勝博」

今回の山火事想定訓練は北部分隊の坂本班長と二人で現場の責任者として参加させて頂きました。

結果は、私個人として伝達のやり方など反省すべき所もありましたが、全体的には良い訓練・経験が出来たと思います。

しかし、改めて林野火災の消火活動の難しさも感じました。

この訓練で得た良い経験を活かすよう、これからも皆で活動していきたいと思えます。

「南高安分団 松倉 祥宏」

私は主に、チェーンソーによる倒木撤去と可搬ポンプの操作を担当しました。

特に可搬ポンプの操作では、水圧の調整・操作のタイミングを無線による情報でしか判断することができず、連携の難しさを痛感しました。

実際に林野火災が発生したとき、現場で正しく素早い判断ができるよう、今回学んだことをしっかりと復習し身に付けていきたいと思えます。

「南高安分団 山本 大寛」

私の担当は、第1水槽・第2水槽までのホース延長でした。

高低差は50m・延長距離260m・傾斜角20度の過酷な山道を、7名がそれぞれホースを2本担ぎ延長しました。

作業を遂行するにあたり、当然山道の険しい道を登ることは大変ですが、水槽間に水を通し、火点まで水を届けることが大切であり、ホースのねじれやたるみ、ホース結合部の離脱がないよう、また、送水後の無線連絡がスムーズに行くよう、いろいろなことを想定して作業に臨み、トラブルなく終えることが出来ました。

この訓練を通して改めて感じたことは、資機材を大切にすることが大切です。

普段の消防団活動においても、常に資機材を大切に扱い、また、メンテナンス等を常時行い、いつでも、消火活動を行えるよう、準備を怠らないようにしなければならぬことを痛感しましたが、みんなで力を合わせた結果、素晴らしい訓練が出来たと思います。

今後とも皆で協力しあい、有事の際には即活動できるように努めます。



車両更新(曙川)

曙川分団の小型動力ポンプ付積載車が18年ぶりに更新配備となり、平成27年2月1日(日)より運用を開始しました。

寒風吹きすさぶ中、分団長・副分団長他5名が取扱い説明会に参加し、メーカー担当者より注意点をレクチャーしていただきました。

今回もベース車はトヨタエース1t2駆ベースで、小川ポンプ機装となり、大幅に使い勝手・性能が向上し、ヘッドライト・テールランプ等は電球を使用した純正品ですが、その他の赤色灯・作業ライト等は全てLED製品となり、省電力化及び輝度も相当明るいため、周囲への注意喚起等にも大きく貢献してくれるものと思います。

また、要である可搬動力ポンプも従来品より大幅にパワーアップした物となり、メンテナンス等も大変容易で、車体も従来とほぼ同じサイズでありながら徹底的に収納スペース等を見直し、今まで以上に収納性が向上しています。

今後、団員一同操作取扱い訓練を重ね、有事の際100%の性能が引き出せるよう努めていきます。

(曙川分団 金武 正亮)



車両更新(久宝寺)

平成27年1月31日(土)久宝寺分団の小型動力ポンプ付積載車が新車に更新されました。

今回の更新は平成9年3月に更新されてから18年ぶりとなり、新車には赤色灯はじめ、積載灯には鮮やかなLEDが使用され、装備品も全てがピカピカで、「この新車両と共にこれからもがんばって行こう」と、分団員一同心新たに誓い合いました。

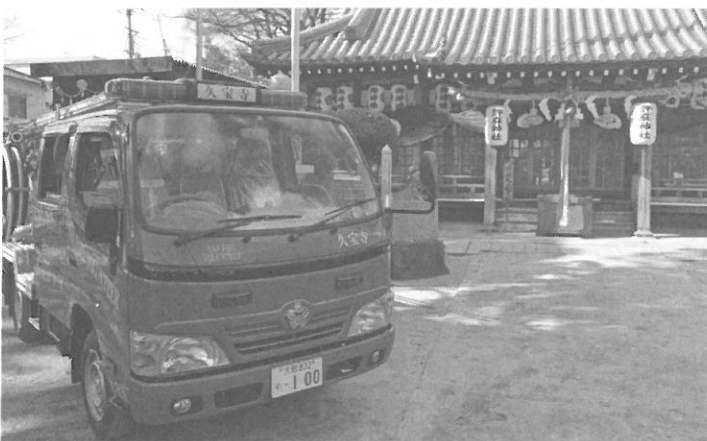
当日は、消防本部において車両の引渡しと資機材の取扱い説明が行われ、皆が真剣な眼差しで説明に聞き入っていました。

翌日、朝から近所の許麻神社にて、「新車お祓い」をしていたとき、運転中の事故はもちろん、地域に火事や災害のないようご祈願いただきました。

最後に、これまで活躍してくれた旧車両、「ありがとう！お疲れさまでした！」

そして、これから活躍する新車両、「よろしくお願いします！」。

(久宝寺分団 赤岩 孝浩)



台風19号に伴う特別警戒

平成26年10月13日(月・祝)に大型の台風19号の接近に伴い、八尾市内でも避難所が開設されました。

午後2時32分高安分団・南高安分団の団員にはメールで、八尾市内の各市役所出張所・コミュニティセンター・北高安小学校・中高安小学校・南高安小学校・高安中学校・南高安中学校・八尾翠翔高校が避難所として開設されたことが伝えられ、所属分隊の屯所へ集結するよう消防本部から指示が出ました。

団員は消防車で広報活動を行い、避難所が開設されたことを住民に伝え、同時に南高安分団では、土のうを地域内の数か所へ運び、水害対策を行いました。

その後は屯所で待機をしながら、定期的に山の様子や川の水位等を警戒しながら地域内を巡回しました。

普段おだやかに流れている川も、あと数センチで溢れる程に上昇していました。

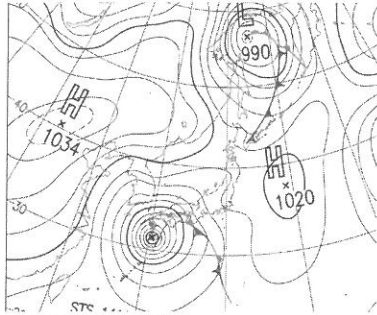
そして夜になると、台風は近畿地方に最も接近し、午後7時18分八尾市に土砂災害警戒準備情報が発令されました。

これに伴い、再び地域内に避難所が開設されていることを消防車で巡回しながら住民に伝え、各避難所の状況を把握するために避難所を訪問しました。

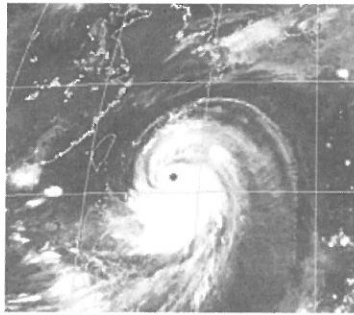
今回は、大きな被害もありませんでしたが、大雨や地震時に備え、いつでも避難が出来るよう準備をし、どの様な行動をすれば良いのかを考える機会になりました。

皆さんもこの機会に災害時の避難方法について、家庭でもう一度確認をされてはいかがでしょうか。

(南高安分団 長峰 宏輔)



台風19号 10月13日 天気図
出典：気象庁ホームページより
<http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/hibiten/index.html>



台風 19号 10月13日 衛星写真
出典：気象庁ホームページより <http://www.jma.go.jp/jp/gms/>

台風は6日から8日にかけての48時間で急速に勢力を強め、中心付近の最大風速60メートル、最大瞬間風速85メートルまで成長した。岩手県から沖縄県までの2府20県で753,111世帯に避難勧告が、64世帯に避難指示が出された。

歳末特別警戒

平成26年12月29日(月)・30日(火)の2日間、八尾市全域において歳末特別警戒が実施されました。

龍華分団では、ポンプ積載車で管轄区域の警戒パトロールを実施し、年の瀬の防火を呼びかけました。

また、龍華分団の管轄である各地域でも自治会が中心となり、毎年夜警が実施されています。

激励巡視では、団長から一年を振り返っての労いと、より一層防災力のある地域の創造に向け尽力していただきたいと、身の引き締まる言葉をいただきました。

(龍華分団 妹尾 吉折)



分団紹介 (団本部)

女性消防団員は平成25年4月に初めて誕生し、今年度新たに5名が加わり、現在6名が在団しております。

普段は女子大生、OL、子育てママと様々な立場の女性たちが、少しでも地域の為に役立ちたいという気持ちで活動しております。

また、防火防災の広報活動として、中河内防災フェアへの参加、八尾市内の警戒パトロール、各家庭を訪問し、火の元・電気配線・住宅用火災警報器の設置状況についての確認や指導をいたしました。さらに、今年度は応急手当指導員講習を受講し、6名全員が指導員の資格を取得しました。

八尾市では、119番通報から救急車が現場に到着までの平均時間は約8分です。その間に出来る事いざという時に使える知識をこれからの活動の中で八尾市全域に広めたいと思います。

今後女性ならではの柔軟さや、それぞれが持っている知恵をいかして、地域の皆さんに身近でわかりやすく伝えられるよう努めてまいります。

(団本部 鳥羽 由紀)

中河内防災フェア

平成26年11月22日(土)久宝寺緑地で中河内防災フェアが開催され、八尾市消防本部、自衛隊や市民団体など防災に関わる多くの団体が集まり、私たち八尾市女性消防団員も参加しました。

煙中体験や水消火器体験、非常食の試食、ワークシヨップもあり、大人も子供も楽しみながら学べるフェアでした。

さまざまな体験ができる中、私は煙中体験をしました。

テントの中は煙が充満しており、前が全く見えず出口がわからなくてパニックになり、煙の怖さを実感しました。

そして八尾市女性消防団員は、AEDを使った心肺蘇生法訓練に参加された方に説明しました。

実際に指導するのが初めてでも緊張しました。

頭の中で理解をしていますが実際に説明するのは難しく苦慮しましたが、一緒に参加していた東大阪市女性消防団員の方に助けていただき、うまく説明することができました。

参加された方全員が熱心に聞いてくださり、とてもやりがいを感じました。

今回の防災フェアを通じて皆さんの防災の意識を高める良いきっかけになったのではないかと思います。

また、私自身の勉強不足も痛感しましたが、これを機に、焦らずこつこつと経験を積み、スキルアップしていきたいと考えています。

私たち、八尾市女性消防団員6名全員が応急手当指導員としての自信と誇りをもって、これから市民の皆様に応急手当の必要性・重要性を伝えていくと共に、6名力を合わせて頑張って活動していきたいと思えます。

皆様どうぞよろしくお願ひします。

(団本部 中谷 美和子)



第14回消防団幹部候補中央特別研修

平成27年2月4日(水)から6日(金)の日程で、東京虎ノ門にある日本消防会館において「第14回消防団幹部候補中央特別研修」が実施され、全国から総勢130名もの消防団幹部候補が一同に集まり、私も八尾市消防団として参加させていただきました。

初日は、開講式を経て、秋田敏文日本消防協会会長の講話があり、その後、ホテルにて参加者全員での意見交換会(親睦会)が行われました。

2日目は、地域防災力は消防団が中核となるという講義が特に印象深く、その他危機管理の講義では、阪神淡路大震災、東日本大震災の比較説明や、図上でのイメージ訓練がありました。

最終日は、伊豆大島での土砂災害における消防団の活動事例や課題討議の発表等があり、3日間の研修を終えました。

課題討議や発表では、色々な自治体での消防団の有りようが様々で、大変勉強になり、「八尾市消防団もすごいぞ!」という事の再認識もでき、これは見習うべきところと思える事も多々ありました。親しくなった仲間達との別れも

惜しく思いつつも短く感じる誠に充実した3日間でした。

最後に、今回この様な機会を与えてくださった向井団長をはじめ、団幹部の方々、各分団長に本誌をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

本研修で得た知識と繋がりを八尾市消防団に持ち帰り、自分自身今後の団活動に役立てていきたいと思えます。

(久宝寺分団 吉川明憲)



消防出初式放水参加隊員の感想

今年の一斉放水に、機関員として初めて参加しました。

当日は、風が強く放水した水が消防車の方に降ってくるというハプニングがありました。日々の訓練のおかげで慌てることなく、機関員としての任務を遂行できました。

これからも、消防団の一員として、精進していきたいと思っています。

(山本分団 稲田 敏行)

出初式の一斉放水の筒先員として参加しました。

初めての経験で緊張しましたが、現場ではスムーズに対応できるような日々の訓練などを通じて、消防団員同士連携を図り、災害に強い町づくりに貢献して行きたいと思っています。

(山本分団 伊達 悠樹)

今年の出初式の一斉放水の筒先員として参加しました。

消防団員として団結力や士気の高揚を図り、防火、防災活動への意識を高められたと思います。

(山本分団 田中 裕巳)

今年の出初式で、初めて一斉放水の補助員として参加しました。

市長表彰授与の直後に実施された事もあり、非常に緊張しましたが、無事に一斉放水の任務を遂行できました。

しかし、火災現場では迅速かつ確かな消火活動が求められるため、今後も訓練に励み、地域の安全を守るよう努めていきます。

(山本分団 野本 和裕)

消防団に入団して7年。日々、消防団員として活動している中、毎年恒例の消防出初式に参加しました。

今年、阪神淡路大震災から20年の節目の年でもあり、今一度、防災に対する意識を高め地域に貢献できる活動をしていきたいと思っています。

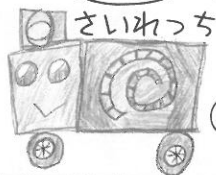
寒空の下、身の引き締まる出初式でした。

(山本分団 藤本 雄太)



☆平成 26 年度 安全運転スローガン☆

- 1 市民の血税で 乗ってる気持ち 忘れずに!**
~消防車両は、数千円もする高価なものであり、市民の血税で購入した貴重なものであること~
- 2 怠るな 日常点検 基本から**
~車両特性を把握せよ! 基本は忘れず、申し送りは確実に!~
- 3 交差点 停車確認 よし! 進入**
~緊急走行時での交差点進入時は、優先通行権を過信することなく乗組員全員で確認を~
- 4 目的地 早く着くより 無事に着く**
~「急がば回れ!」急いで狭隘道路を走行するより、安全で確実な道路を選択せよ!~



行事結果

11月8日(土)
健康診断
132名
受診しました

11月29日(土)
ボウリング
154名
参加しました



しょうかくん

編集後記

広報部員並びに関係者の皆様のご協力のおかげを持ちまして無事35号発刊となりました。様々な意見・アイデアを出して頂き充実した「火の見櫓」になったと思います。

今後もご協力の程よろしくお願ひいたします。

ありがとうございます。

(竹下 健一)

◎ 広報部員名簿 ◎

委員長	山本分団	竹下 健一
副委員長	龍華分団	兼山 泰治
委員	志紀分団	松本 直也
	久宝寺分団	赤岩 孝浩
	西郡分団	藤原 道洋
	八尾分団	板根 和男
	龍華分団	鈴木 卓也
	大正分団	戸澤 吉泰
	曙川分団	妹尾 泰治
	南高安分団	竹田 勝彦
	高安分団	金武 正亮
	山本分団	北林 文善
	志紀分団	長峰 宏輔
		黒岡 貞一
		坂上 大介
		樋口 雄一
		清水 大輔
		岩田 兼一
		澤田 賢一